



# 国労せんだい

No. 2593  
2010年11月5日  
発行責任者 橋本 昭二  
編集責任者 武田 昌仙

## 里帰りを果たすまで頑張ろう

国労秋田地本と仙台地本山形県支部の「配転者激励交流会」が、10月30日秋田県横手市内マツヨ会館に於いて開催された。

交流会は毎年開催され今年で6回目。一年振りに顔を合わせた仲間達は再会を喜びまた、懸案事項である「希望地秋田に戻る異動」への決意を確認し合った。

会は秋田地本久米副委員長 決を図りたい」と挨拶。長司会で開会し、配転元の秋田地本瀬下委員長が「地元へ帰すことを基本に据えた取組が大事。会社の都合で線引き、配転されたのだから、会社に対して戻せとばかりと突きつけ解

また東日本本部からは武田組織部長が参加し、組織状況を中心に報告を行った。

懇親会においては、参加者全員から自己紹介と近況報告を受け、全員がしっかりと耳を傾けていた。

特に昨年7月、業務中に倒れ地元は無言の帰宅をした鶴川氏のことが話されると、一同は無念さを噛み締め、「必ず戻る」という決意をより一層強めた。



参加者全員で記念撮影

田委員長が、会への御礼と来年の山形での開催を約束

し、盛会の内終了した。

## 年末手当 3.5カ月要求

国労本部は10月21日、「2010年度年末手当」の支払いを貨物会社に対し入れると共に、第一回交渉を開催し、組合側要求趣旨説明を行った。

また国労東日本本部も、同日、「2010年度年末手当についての申し入れ」をJR東日本に対して行った。

## 福島 異常時に絞り議論 全分会・班交流集会

10月9日、福島県支部主催による、全分会・班交流集会が郡山ビックアイにおいて開催された。春に開催された交流集会においても「異常時」での問題が共通の課題として出されており、今回もその後の経過や現状について交流し、組合員間の認識の一致を図ったもの。

交流会では佐藤県支部書記長より問題提起がされ、設備関係と営業・乗務員の2つの分散会で議論が進められた。

◆分散会では出された意見等(一部抜粋)  
▼緊急時の初動体制。5名必要でも2名で出勤。事故時、仕切れないなど指示出来ない管理者が。会社の施策によるものであり、今後拡大していく(信通)

▼旅客救済。代行輸送をしつかりと。貨物では通運業者がトラックで荷物を運ぶシステムがある(運輸)  
▼試み使用が多い。合理化事業の前倒しを通常業務で行っている(工務)

▼保線・電力でのレールスターでの巡回は担当エリアの違いから足ロスが。また他支社との境界は危険箇所や所見の違いから難しい(工務)



国鉄闘争支援会 国鉄闘争支援会

## 国鉄闘争に勝利 する共闘会議 二瓶 久勝議長

難であると判断し、政治解決に切り替えた。理由は「責任は政府にある。よって政治が解決を

## 雇用問題が解決して政治解決

図れ」である。

▼政権交代と四党の政治解決に向けた努力があったことは言うまでもないこと。

▼課題は雇用確保。政府の解決案は、「路頭に迷わない解決」に最大限配慮した内容と理解。

従って、裁判での「二括和解」

2名。

▼選挙があつて、窓口が壊れた。四党の担当者がほぼ揃ったので近々に会合を持ち、その後政府からJRなどへ要請をする。

▼JRは決まっているが、「人道的見地」から雇用を判断すべき。JR北海道でいえば、連結50数億

【二面に関係記事】



10・10・10  
14・8・1  
団交 冬期対策について 支社提案  
第1回執行委員会  
貨物経営協議会/団交 自動車冬期

11・10・10  
3・30・29  
第11回地本ゴルフ大会  
秋田地本配転者交流会/東日本出向連総会  
東日本各地方組織部長会議



# 米沢発 雇用実現まで支援し続ける

## 音威子府闘争団・家族と連帯する集会

国鉄闘争置賜支援共闘会議（佐藤清蔵議長）は、10月29日、国労音威子府闘争団とその家族6名を米沢に招き、米沢市内ホテルサンルートにおいて、連帯する集会を開催した。

集会は二部構成で開催され、第一部は学習会として、50名が参加。国鉄闘争共闘会議の二瓶議長より、「国鉄闘争の現状と雇用確保に向けて」と題した講演を受けた。

二瓶氏は支援共闘会議を立ち上げた経緯と解決に至る要因、今後の課題などを約一時間に亘り講演（一面）

また第二部は「連帯する夕べ」としてレセプションを開催。国労組合員10名を含む、総勢80名が参加した。主催者を代表し、置賜支援共闘会議の佐藤議長は「長い闘いの経過で多くの仲間を失った。しかし今日、多くの仲間が結集してくれ

に（関係記事）。

置賜の地まで来てくれて本当に嬉しい。闘いの思想が



講演会は会場が満杯に



闘争団員と家族の皆さん

# 継続は力なり!

## 努力の成果を誇る



表彰されたみなさん

9月2～3日開催された第24回国労東日本本部大会において、恒例の機関紙表彰が行われました。仙台地本からは、郡工支部の「郡工情報」が52号、東北工務事務所分会の「ろばた」が51号を発行し、最優秀機関紙として表彰されたほか、郡工支部貨物分会の「分会通信」が40号、仙総支部組立分会の「ガンパ組立」が39号、仙総支部の「団結」が

38号、郡山駅連合分会の「分会情報」が31号、地本の「国労せんだい」が32号を発行し、それぞれ優秀機関紙表彰を受賞しました。全体の表彰数は17であり、実に4割の表彰が仙台地本という結果に橋本委員長の株が上がった?とか。

機関紙作成に携わった関係者の皆さん、本当におめでとうございませう。

### 音威子府から参加された皆さん

- ◆ 関野政幸さん (闘争団副団長)
- ◆ 杉山均さん (事務局長)
- ◆ 杉山智子さん (地区家族会長)
- ◆ 千葉真貴子さん (地区家族会書記)
- ◆ 坪坂一郎さん (アルバイト班)
- ◆ 坪坂厚子さん (地区家族会副会長)

国労せんだい2592号の退職のお知らせの欄において、村松孝一さんとあるは、松川秀利さん（仙石線駅連合）の間違いです。また地方委員の報告で仙総支部の小松知喜さんの字が間違っておりまして、関係者の方には心よりお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

### おわび

今日の日を迎えられた感謝の言葉と雇用確保まで闘う決意、また最後まで支援の要請が述べられた。また置賜共闘は、94年に発足してから現在までの闘いの軌跡のスライド上映を行い、参加者は、長かった闘いを改めて振り返り、感慨深くスクリーンを見つめていた。

# アスベスト使用通知せず工事

有無など注意事項は通知されなかったという。

JR新庄1号社宅ではアスベストの使用が会社の通知により明らかにになり、居住者が全て2号社宅に移転した。（ただし、その移転理由はアスベスト使用によるものではなく、1号居住者の減少により、諸経費削減のための移転と支社は説明している）

さて、除去工事は10月中旬終了したが、その前段の工事に問題があったようだ。

関係者の話によれば、アスベストの除去作業に伴い室内の灯具を撤去する作業が行われたが、アスベスト使用の

## 地方本部に意見書

9月24日、仙台建築分会から、同分会の齋藤祐一執行委員長名で地方本部に対して、先の第79回定期全国大会において可決・承認された、「ストライキ基金運用規制の一部改正」についての意見書が提出された。また10月15日には、仙台電車区分会より我妻美津男執行委員長名で同様の意見書が届けられた。

その主たる趣旨は、「ストライキで闘うために積み立てられた基金が、事前説明や討議がないままに、目的以外に使用されることはあってはならない」というもの。

意見書ではこの「スト基金運用規制の一部改正」について、説明会などを開催し、全組合員への説明を求めている。

### 退職のお知らせ

- 9月30日
- 佐藤 清さん
- 小牛田 駅連
- 星 修児さん
- 福島地区

長い間お疲れ様でした